

平成 30 年 5 月 30 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2016～2017

課題番号：16H06694

研究課題名(和文) 平安朝物語の後宮制度・後宮文化の研究

研究課題名(英文) Study of the system and culture of the Kokyu palace in tales of the Heian period

研究代表者

栗本 賀世子 (KURIMOTO, Kayoko)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・研究員

研究者番号：80779661

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は以下の三点である。

第一に、平安京内裏の建物である麗景殿が歴史上でどのように使用されていたかを調査し、『源氏物語』の麗景殿女御(花散里の姉)が平安時代の麗景殿に居住した皇妃たちをモデルとして造型されたことを明らかにした。第二に、皇妃の姉妹たちがどのような時に内裏に滞在するかを史料の調査によって明らかにし、そのことを手掛かりにして『源氏物語』の花散里の内裏滞在のあり方を考察した。第三に、平安時代には当代の帝の母でも妻でもない皇后は内裏に入ることができないという事実を見出し、源氏物語の朱雀帝の治世下で藤壺中宮が内裏外に居住した理由を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study showed the following three points.

First, I examined how Reikeiden, the building in the Heian Imperial Palace, was used in history, and pointed out that models of Reikeiden no Nyogo, Hanachirusato's sister in Genji-monogatari, are emperor's wives who lived in Reikeiden in the Heian period. Second, by surveys of historical records, I revealed in what case sisters of emperor's wives stayed in the Imperial Palace. That led to understanding of the way of Hanachirusato's stay in the palace in Genji-monogatari. Third, I found that an empress, who was neither the then emperor's mother nor wife, couldn't enter the Imperial Palace in the Heian period, and clarified the reason why Empress Fujitsubo lived outside the palace during the reign of Emperor Suzaku in Genji-monogatari.

研究分野：中古文学

キーワード：後宮 皇妃 殿舎 源氏物語 麗景殿 花散里

## 1. 研究開始当初の背景

『源氏物語』を始めとする平安時代の物語作品には、当時の政治・文化に関する現在の読者の知識不足のために、よく分からないまま放置されてきた箇所が多々ある。その一つが、物語の後宮にまつわる記述であった。本研究者は、以前から、皇妃たちが暮らす後宮の建物——後宮殿舎に注目し、物語の後宮殿舎の設定の問題に積極的に取り組み、その方面の研究を大いに進展させてきた。しかし、一部の殿舎の問題は手つかずのまま残っており、また、皇妃たちの身分体系やその暮らしぶりなどの別の問題にも本研究者の関心は広がりつつあった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、不明な点が多い後宮制度・後宮文化について徹底的な史実の調査を行い、平安時代当時の実態を解明すること、そしてその成果を『源氏物語』の後宮設定にまつわる諸問題を読み解く手がかりとして、設定の背後にある物語作者の意図を明らかにすることにある。研究対象としては、『源氏物語』の後宮殿舎のみならず皇妃の身分や暮らし方の問題についても扱う。

## 3. 研究の方法

本研究の方法としては、まずデジタルテキストが収録された CD-ROM・DVD-ROM やオンラインデータベースを駆使して後宮殿舎・皇妃に関する用例を調査し、歴史学の研究文献も参照して、平安時代の後宮制度・後宮文化についてその詳細を明らかにする。次に、『源氏物語』を中心とした平安朝物語作品の後宮殿舎・皇妃の設定と調査結果から判明した当時の後宮の実態を比較検討し、物語作者の設定意図について解き明かす。

## 4. 研究成果

(1) 論文「皇妃の姉妹の内裏滞在一花散里の場合」(『むらさき』2016年12月)では、『源氏物語』の女君の一人、花散里の内裏住みについて考えた。花散里は、姉の麗景殿女御に従って内裏に滞在していたことがあったのだが、その実態がどのようなものであったか——一時的な滞在かもししくは常駐して

いたかについて、史上の皇妃の姉妹の滞在例と比較し、考察した。史上においては、宮廷行事の見物のために短期間滞在する場合、親兄弟などの後見をなくした後に姉妹の皇妃を頼って長期間滞在する場合などがあり、花散里の場合は後者であることを明らかにした。

(2) 論文「〈成立〉からみた続篇の世界——描かれざる過去の実現としての紅梅・竹河巻」(『新時代への源氏学4』、竹林舎、2017年)では、『源氏物語』第三部の初めに位置する紅梅・竹河巻を扱った。これらは、紅梅大納言家・髭黒大臣家の姫君たちの天皇・上皇との結婚問題を描いた巻であるが、第三部の他の巻から内容が遊離しており、登場人物たちの官職が他の巻と矛盾するという大きな問題も抱え、成立論的観点から紫式部とは異なる別人の作によるとの説も提出されている。それに対して、紅梅巻に詳しく描かれる「紅梅の御方」の名が後の宇治十帖の宿木巻にも記されること、竹河巻が前提としてなければ第三部の政治的状況が読者に分かりづらいことなどから、両巻が宇治十帖の前提として描かれることを指摘し、また官職の問題についても、他の巻との矛盾を生じさせてでも、個々の場面の必然性に依拠して、新たな設定を付して登場人物を据え直す物語の方法によるものであることを説いた。さらに紅梅巻・竹河巻は、かつて第一部で結婚問題が描かれた真木柱・玉鬘という二人の女君を再登場させるのだが、真木柱や玉鬘にかつて起こりえた出来事をその姫君たちの身の上に代わりに実現させるという意義を持った巻であることも論じた。

(3) 日本文学協会研究発表会(2017年7月、於新潟大学)では、『源氏物語』朱雀朝の藤壺中宮の里住み——史上の東宮母と比較して——の題目で口頭発表した。『源氏物語』朱雀朝における藤壺中宮は、桐壺院と共に後院で生活しており、夫院の死後も里の三条宮に移って、内裏に居住する息子の東宮とは離れ離れに暮らしていたが、その原因として、当代の帝の妻でも母でもない中宮(皇后)は内裏に住むことはもちろん入ることも許されなかったという史上の慣例があったことを指摘した。その一方、物語の賢木巻で、朱雀朝におけるただ一度の藤壺中宮の参内場面が描かれているのが問題になるわけだが、それについては、出家前の藤壺中宮に我が子東宮への最後の別れを告げさせるために、物語が史実に反して当代と家族関係にない中宮の参内場面を描いたのだと解した。

(4) 論文「花散る里の女御——麗景殿のイメージをめぐる——」(『源氏物語 煌めくこと

ばの世界Ⅱ』、翰林書房、2018年)では、平安京内裏の後宮の建物の一つ、麗景殿について論じた。この殿舎は、『源氏物語』では、光源氏の夫人・花散里の姉女御(桐壺帝の麗景殿女御)の住まいであった。しかし、先行研究ではあまり取り扱われることはなく、殿舎の特徴など明らかにされていない部分も多かった。本論文では、史上の麗景殿の居住者の調査から、麗景殿が後見を失ったり寵愛を失ったりして境遇の変化を経験した不安定な身の上の皇妃の住まいとなることが多かったことを見出し、そのことが親のみならず夫の桐壺帝を失って寄る辺ない身の上になっていた花散里の姉女御の住まいを麗景殿とする決め手になったのではないかと考える。さらに、史上の村上天皇の庇護を受けて父の死後に入内した麗景殿女御莊子女王を花散里の姉女御の准拠として指摘した。

以上のように、本研究では、史上の後宮殿舎の使用者や使用方法、皇妃の宮中での生活方法の一端を明らかにし、歴史研究・文化史研究にも寄与するような新たな事実を発見する一方で、准拠や作者の設定意図などを示し、平安朝物語創作の方法を解明することに成功している。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1件)

①栗本賀世子、皇妃の姉妹の内裏滞在一花散里の場合一、むらさき、査読無、53輯、2016年、pp. 73-pp. 77

[学会発表] (計 1件)

①栗本賀世子、『源氏物語』朱雀朝の藤壺中宮の里住み一史上の東宮母と比較して一、日本文学協会研究発表大会、2017年

[図書] (計 2件)

①栗本賀世子他、翰林書房、源氏物語 煌めくことばの世界Ⅱ、2018年、pp. 220-pp. 236

②栗本賀世子他、竹林舎、新時代への源氏学 4、2017年、pp. 236-pp. 258

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

栗本 賀世子 (KURIMOTO, Kayoko)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・研究員  
研究者番号：80779661

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者 ( )

研究者番号 :

(4) 研究協力者 ( )